

■ グループ紹介

大日本インキ化学工業株式会社

1. 会社概要

1908年、川村インキ製造所として創業して以来、印刷インキから有機顔料さらに合成樹脂へと事業基盤を確立すると共に、そこで培った応用技術を基にプラスチック、包装材料、建材などの加工分野に進出する一方、電子記録材料、新素材、バイオなどの先端分野へと領域を拡大してきた。現在、18事業部・4本部の事業分野において、広範なニーズに応え、ユーザーのパフォーマンスの向上に寄与すべく、固有技術の深耕とアプリケーションの開発を進めている。

また、'80年代に欧米企業の買収をはじめ、積極的に国際化を進めた結果、連結ベースでは売上高の46%が国外（主に米国）となっており、日本の化学企業の中では、最も国際化の進んだ部類に属している。

'96年3月期会社業績（単位：百万円）

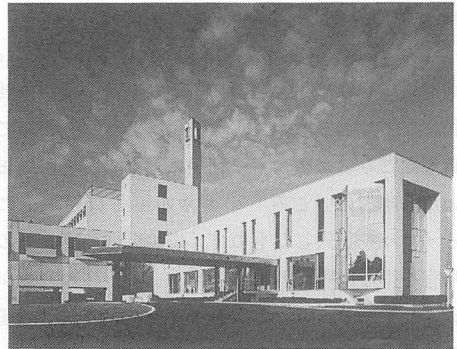
| | 単 独 | 連 結 |
|---------|---------|---------|
| 売 上 高 | 474,424 | 868,336 |
| 経 常 利 益 | 13,485 | 14,653 |
| 当 期 利 益 | 5,968 | 6,984 |
| 研 究 開 発 | 27,274 | 35,558 |

2. 研究開発活動

研究開発体制は、国内の総合研究所、グラフィックセンター、二つのポリマ関連技術研究所および各事業部の技術部門および海外のSun Chemical, Reichhold Chemicals各グループの研究所および独立機関のDIC Berlin GmbH R&D Laboratoryからなり、以下の分野で連携しつつ開発を進めている。

主な研究開発拠点

| | 日 本 | ア メ リ カ | ヨ ー ロ ッ パ | ア ジ ア |
|-------|---------|--------------|-----------|-------|
| 印刷インキ | 東京・蕨・吹田 | カールシュタット(NJ) | フランクフルト | |
| 有機顔料 | 鹿島 | シンシナティ(OH) | | |
| 合成樹脂 | 堺・千葉 | RTP(NC) | ウィーン | |
| 基礎研究 | | | ベルリン | |
| 開発研究 | 佐倉 | | | 青島 |



新分野開拓の拠点 総合研究所（千葉県佐倉市）

コアビジネスとしてのグラフィックアーツとポリマ関連技術については、国内各技術部門とSun ChemicalグループおよびReichhold Chemicalsグループが連携し、無溶剤化、水性化、粉体化、脱フロン化など環境対応テーマにいち早く取り組むと共に、機能性、生産性の面でますます高度化する市場要求に応えるユニークな製品開発を目指している。

一方、情報・電子材料、機能性高分子材料、医農薬などの新事業分野については、国内の技術部門と総合研究所を中心に、例えば生分解性ポリマーや中空糸分離膜による脱酸素水を利用した省農薬農業など、コアビジネスとの関連において独自性を発揮できる分野を選択して研究開発を進めている。

また、共通の基礎技術研究については、総合研究所とDIC Berlinが担当し、グローバルな視野で広く人材を求め、独自技術開発の基盤強化を図っている。

さらに、中国青島市に研究開発会社（青島帝科精细化学有限公司）を設立（'96年3月）、発展の著しいアジア・中国における技術支援体制の確立を目指している。

以上述べたグローバルな研究開発体制から導かれる優れた技術蓄積を基に、創造性豊かな個性ある製品を提供し、メーカーとして広く社会・文化の発展、より豊かな次世代の実現に寄与して行きたい。

所在地：〒270 東京都中央区日本橋3-7-20

ディックビル

（文責：技術部担当課長 植村光由）